

Asia Indicators

発表日: 2025 年 10 月 31 日(金)

インド・9月生産に GST 減税を好感する動き(Asia Weekly(10/27~10/31))

～韓国・9月生産は前年比は加速も、トランプ関税の本格発動の余波で前月比は減少～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

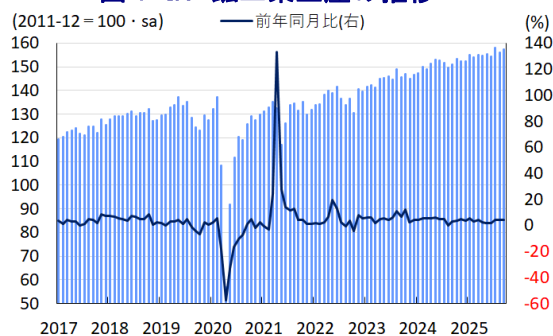
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/28(火)	(韓国)7-9 月実質 GDP(前年比・速報値)	+1.7%	+1.5%	+0.6%
	(インド)9 月鉱工業生産(前年比)	+4.0%	--	+4.1%
10/29(水)	(オーストラリア)7-9 月消費者物価(前年比)	+3.2%	+3.0%	+2.1%
10/30(木)	(フィリピン)9 月輸出(前年比)	+15.9%	--	+5.5%
	9 月輸入(前年比)	+2.1%	--	▲0.3%
10/31(金)	(韓国)9 月鉱工業生産(前年比)	+11.6%	+5.8%	+0.7%
	(中国)10 月製造業 PMI	49.0	49.6	49.8
	10 月非製造業 PMI	50.1	--	50.0

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド]～GST 減税による需要押し上げ期待を反映して、製造業を中心に生産活動が押し上げられる動き～

28 日に発表された 9 月の鉱工業生産は前年同月比+4.0%となり、前月(同+4.1%)からわずかに伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせており、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅く推移している。商品市況の調整の動きが重石となる形で鉱業部門の生産は下振れする一方、製造業での生産拡大が生産全体を押し上げている。インフラ財の生産は力強さを欠く動きをみせるものの、資本財や中間財のほか、消費財は耐久消費財、非耐久消費財問わず幅広く生産が底入れしている。モディ政権は、トランプ関税による景気への悪影響を軽減させるべく、9月22日付でGST(財・サービス税)引き下げによる景気下支え策に動いており、これに伴う需要押し上げを期待した動きが生産活動の活発化を促していると思われる。

図1 IN 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成、季節調整値は当社試算

[韓国]～9月生産は前年比は加速も、トランプ関税の本格発動の余波で前月比は4ヶ月ぶりの減少に転じる～

31日に発表された9月の鉱工業生産は前年同月比+11.6%となり、前月（同+0.7%）から伸びが加速している。ただし、前月比は▲1.2%と前月（同+2.2%）から4ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きが続いた流れに変化の兆しが見えてくる。頭打ちの流れが続いた建設業で底打ちに転じる動きがみられるほか、サービス業や鉱業部門の生産に底堅い動きがみられるものの、過去数ヶ月にわたって堅調な動きをみせてきた製造業での生産拡大の動きに一服感が出ていることが、生産全体の重石となっている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産は引き続き旺盛に推移しているものの、トランプ関税の本格発動などの影響を受ける形で自動車など輸送用機械関連のほか、電気機械関連、機械製品関連など輸出財関連で軒並み生産に下押し圧力が掛かるとともに、こうした動きに連動して化学製品をはじめとする素材、部材関連の生産も下振れするなど、幅広く製造業の生産に頭打ちの動きがみられる。

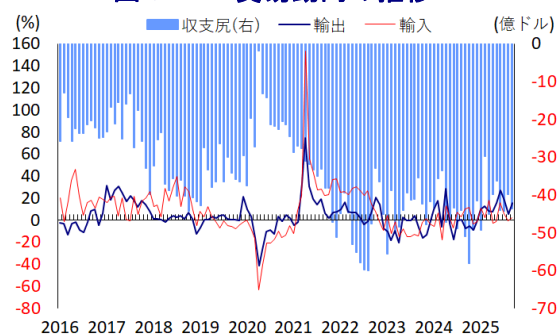
図2 KR 鉱工業生産の推移



[フィリピン]～半導体などを中心に、中国本土向け、米国、アジア新興国向けなどで輸出は堅調な推移が続く～

30日に発表された9月の輸出額は前年同月比+15.9%となり、前月（同+5.5%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が堅調に推移しているほか、鉱物資源関連の輸出の底堅さも輸出全体を下支えしている。国・地域別では、日本向けやEU向けは力強さを欠く動きをみせているものの、最大の輸出相手である中国本土向けに底堅さがみられるほか、トランプ関税の本格発動による悪影響が懸念されたものの、米国向けは堅調な動きをみせている上、ASEANをはじめとするアジア新興国向けも堅調に推移している。一方の輸入額は前年同月比+2.1%となり、前月（同▲0.3%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、半導体をはじめとする電子部品関連の輸入に底堅い動きがみられるほか、機械製品関連や鉱物燃料関連、穀物をはじめとする食料品関連など幅広い財で輸入が押し上げられている。結果、貿易収支は▲43.52億ドルと前月（▲39.86億ドル）から赤字幅が拡大している。

図3 PH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

